

通信制高等学校養護教諭を対象にした健康支援スキル向上に寄与する研修会の有効性

増田明美¹⁾、塚本康子¹⁾、林三千恵²⁾

1) 新潟医療福祉大学 看護学科

2) 千葉県立犢橋高等学校

【背景・目的】1948年3月「新制高等学校通信制」が発足し、当初は勤労青年が多かったが、現代では、心身の健康問題を抱える生徒や不登校の経験のある生徒の進路先として通信制高等学校を選ぶ人が増えてきた。

筆者らは、2014年、全国にある通信制高等学校130校の養護教諭を対象に質問紙調査を実施し、通信制高校保健室の現況と課題を明らかにした。その結果、養護教諭は、「通信制体制での健康支援の困難さ」を感じ、「校内や外部の専門機関との連携が整っていない」「保健室の人的・物理的環境整備の要望が困難」などの課題を抱え、「教員のメンタルヘルス」に対するケアや「他校との情報交換の場」を望んでいた。

そこで、本研究では、通信制高等学校の養護教諭を対象とした通信制生徒の健康支援スキル向上に寄与する研修会を開催し、その有効性を明らかにすることを目的とした。

【方法】132校の通信制高校校長宛に研修会のチラシ・案内状を郵送した。学校長の同意、同意書に同意した養護教諭を対象に研修会を開催した。調査方法は、研修会前、研修会後の調査はその場で配布・回収する集合調査法、研修終了3ヶ月後の調査方法は、郵送法による質問紙調査で実施した。

調査項目：研修会プログラム評価は、毎日研修終了時に、内容の「適切さ」、「わかりやすさ」、「満足度」、「役立ち度」の4つの評価項目について5件法で回答を求めた。さらに①職業性ストレス簡易調査②ローゼンバーグのセルフエスティーム、③心身の訴えについて調査した。3ヶ月後は、①仕事する上での変化(5件法)、②生徒に対する気持ちの変化(5件法)、③研修で学んだ内容を業務の中に取り入れ実践したかの有無と内容を調査した。

調査期間：2015年8月1日～11月30日

倫理的配慮：常葉大学倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】1. 研修会プログラムの特徴

テーマ：「通信制高校で学ぶ生徒への支援のあり方を探る」

研修会時期：2015年8月1日・2日 東京にて開催

養護教諭のニーズの高いテーマ、スキルアップができる支援方法などが盛り込まれている企画を練り、「①精神的な問題を抱えた生徒支援を支えられる専門知識とスキル②健康意識を高める自己管理への健康教育スキル(改訂版生活分析のカウンセリング技法・コラージュ技法)③校内や外部の専門機関との連携の仕方④他校との情報交換の

場⑤教員のメンタルヘルスに寄与するプログラム」の5項目を中心とした2日間の研修会を企画した。

2. 研修会対象者

参加人数22名、そのうち通信制高等学校養護教諭17名(女性)、通信制高等学校教諭5名(男性3名、女性2名)であった。研究対象は、通信制高等学校養護教諭17名とし、質問紙を配布した。回収率は100%であった。

1)分析対象者属性

平均年齢は52.6歳、専任養護教諭47.1%(8名)、非常勤の養護教諭47.1%(8名)、兼務5.9%(1名)であった。勤務年数10年未満は29.4%(5名)、10年～24年未満35.4%(6名)、25年以上35.4%(6名)であった。

3. 研修会の評価

研修会全体のプログラムの内容の満足度は、「満足した」92.3%、「まあ満足した」が7.7%であった。プログラムの構成については、100%適切であった。研修の時期は92.3%が適切であった。

4. 研修終了直後、3ヶ月後の評価

セルフエスティーム尺度得点については研修終了直後に高い傾向($p=0.059$)であった。また、心身の訴え尺度得点では研修3ヶ月後に有意差($p=0.025$)が得られた。職業性ストレス簡易調査では、研修3ヶ月後に身体愁訴($p=0.001$)、心理的な仕事の質負担($p=0.021$)、心理的な仕事の量負担($p=0.043$)軽減に有意差があった。

3ヶ月後の質問紙調査では、「研修に参加して、仕事する上での変化」は、68.8%(11名)が変化したと回答し、「生徒への支援方法を活用し、保健室機能が強化された」「メンタル面の対応が楽になり判断しやすくなった」などの記述があった。「研修に参加して、生徒に対する気持ちの変化」は、81.3%(13名)が変化したと回答し、「生徒対応に心の余裕ができた」などの記述があった。「研修会終了後に研修で学んだ内容を業務の中に取り入れ実践したことはあるか」は、62.5%(10名)が実践していると答えた。

【考察】本研修会3ヶ月後においても、研修会で得た知識やスキルが継続的に役立っていることから総合評価すると、参加者にとって満足度の高い研修会であったといえる。

仕事へのやる気や生徒支援に影響を与え、養護教諭の健康支援活動の実践に役立っていることが示唆された。また、養護教諭の心身の訴えが軽減し、心理的な仕事の質と量の軽減に有意差があったことからメンタルヘルスに寄与することも示唆された。今回、事前に通信制高校の現状を把握し、通信制養護教諭のニーズの高いプログラムかどうか吟味したことが、対象者の満足につながったと考える。

【結論】本研修会が、養護教諭の健康支援のスキル向上に寄与していることが明らかになり、有効性が示唆された。

【謝辞】本研究は、2013～2017年度科学研究費助成事業基盤研究(C)(課題番号25350872)の助成を受けて行った。